

## ガイダンス

### 1. 講義の予定

04月14日(火)	第1回目	ガイダンス, 総論・建築環境
04月21日(火)	第2回目	熱環境(その1・温度と熱移動)
04月28日(火)	第3回目	熱環境(その2・室温と熱負荷, 断熱と気密と結露)
05月06日(火)		祝日のため講義なし
05月12日(火)	第4回目	熱環境(その3・環境と人体の熱平衡, 温熱環境の計測と設計目標)
05月19日(火)	第5回目	熱環境(その4・太陽の動き, 影と日照)
05月26日(火)	第6回目	熱環境(その5・日射の利用と遮蔽, 太陽放射と地球放射)
06月02日(火)	第7回目	熱環境の進路調整日
06月09日(火)	第8回目	光環境(その1・照明の基本的考え方, 昼光照明と電灯照明)
06月16日(火)	第9回目	光環境(その2・色彩計画の基本)
06月23日(火)	第10回目	空気環境(その1・汚染質濃度と換気, 室内気流と換気の効率)
06月30日(木)	第11回目	空気環境(その2・換気と通風の力学)
07月07日(木)	第12回目	空気環境(その3・換気と通風の計画, 気密性能と換気)
07月14日(火)	第13回目	音環境(その1・音の基礎)
07月21日(火)	第14回目	音環境(その2・音の応用)
07月28日(火)?	第15回目	定期試験(日程変更の可能性あり)

注) 上記のスケジュールは, あくまで予定です。皆さんの理解度に応じて, また進行状況について検討を加えた結果, 予定が変更になることもあります。注意してください。

## 2. 教科書

- ・環学教科書研究会編著「環境工学教科書 第二版」（彰国社，¥3,500+税，ISBN:4-395-00516-0）
- ・その他の参考文献については、講義の中で適宜紹介するか、もしくは配付資料に載せる予定です。

## 3. 講義の進め方

- ・单元ごとに一括して穴埋め式の資料を配布する予定です（少なくとも、次の回の講義の資料を前の回の講義で配布する予定です）。ノートを作成するか否かは各自の自由です。
- ・講義への出席の際には、講義が予定されている範囲の予習を行うことを強く求めます。講義しなければならない分量が多く、また内容も決して簡単ではありません。予習を前提としなければ、内容をできるかぎり理解してもらい、なおかつ全ての範囲を終えることができないからです。場合によっては、講義中に、回答を求めることもありますので、必ず予習を行ってから講義に参加するようにしてください。なお、内容が多いことについては、担当者も十分理解していますが、カリキュラムの編成上、担当者レベルでは対応できないのが現状です。
- ・講義の時間中に、空欄を埋めるだけで満足しないでください。講義は単なる答え合わせの時間ではありません。この講義では、配付資料の空欄を埋める語句に関連した様々な解説を行う予定です。また講義の際には、できるだけメリハリを付けるよう努力しますが、内容が内容だけに単調になりがちです。したがって、様々な解説や関連する語句、具体例などを配付資料に書き込むなり、ノートを取るなりして、積極的に講義に参加し、自ら主体的に講義内容の理解を進めてください。
- ・基本は、(敢えて)板書です。ただし、第9回目の「光環境（その2・色彩計画の基本）」では液晶プロジェクタを使用する予定です。
- ・講義で配布する資料などは、できるだけ下記のホームページにアップロードしておくので、必要な人や欠席した人は、各自でダウンロードしてください。なお、この作業は、学生の皆さんの利便性を考えてのことですが、担当教員（辻原）個人としては、+αのサービスと考えています。欠席した場合などは、友人にコピーさせてもらうなど、皆さん各自で対応するのが本来の姿だと考えています。

<http://www.pu-kumamoto.ac.jp/~m-tsuji/kougi.html/genron.html/setubigen.html>

- ・講義の後で、復習のためにできるだけ演習問題を配付します。次の講義の際に提出してください。採点して次の次の講義の際に返却する予定です。解答は、原則として配布しません。ただし、採点方法などについては変更する可能性もあります。なお、演習問題の出題については、基本的な問題から応用問題まで幅広く対象としたいと考えていますが、時間の都合上、やむを得ず、応用問題のみの出題となることが多くなります。疑問がある場合は、担当者に質問する

などして、解決して下さい。

- ・なお、演習問題の提出については、これまでに「宿題を友達に聞いてやってきたにも関わらず写したと判断された。そのような一元的な見方はやめてもらいたい。」などのような指摘がありました。他人の解答と全く同じ解答を提出した場合には、担当教員（辻原）にはどのようにして解答を作成したのか判断がつかないことがあります。しかし、きちんと演習問題への解答を作成した人に対しては評価したいと考えていますので、他人の答えを写さないよう指摘することがあります。そのような指摘を受けないように解答を作成して下さい。
- ・演習問題の解答は配布しません。しっかりと自分で考えて演習問題を解き、しっかりと解説を聴くよう心がけて欲しいと考えているからです。
- ・各自で、関数電卓を準備してください（メーカーや型番は、特には指定しません）。演習問題では三角関数や指数関数の計算を行うことがあります。ただし、関数電卓の使い方については講義時間中に説明する余裕はありませんので、各自で勉強して下さい。
- ・内容が盛りだくさんですので、できるだけ毎回出席してください。担当者もできるだけ一回の講義ごとに完結した内容にするように心がけますが、科目の特性から無理な場合もあります。欠席が続けば、講義の内容を理解することが難しいと考えられます。
- ・配付資料は、過去10年程度の一級建築士と二級建築士の試験問題の内容を網羅するように作成しています（直近の試験については盛り込めていないものもあります）。これは、この環境設備原論で勉強する内容（一般には「建築環境工学」と呼ばれる分野です。）は、建築士の試験や就職試験で必ず出題される内容にもかかわらず、構造力学などと異なり、カリキュラムの編成上、この時期のほぼ1回きりしか勉強できないことを考えてのことです。内容が多く大変ですが、是非何とか講義に食らいつき、理解を進めて欲しいと思います。

#### 4. 成績の評価

- 1) 出席点、演習問題の提出状況ならびに定期試験（筆記試験）の結果を総合して、評価します。
- 2) 出席点と演習問題の提出点を合わせて約3～4割、定期試験（筆記試験）を約6～7割として評価する予定です。
- 3) 定期試験の際の持ち込みの可否や定期試験の形式については、講義の進捗状況や皆さんの理解度などに応じて検討し、試験が近くなってから伝達します。昨年度のやり方を踏襲する可能性もありますが、大幅に変更する可能性もあります。なお、担当者（辻原）の個人的な考えとしては、持ち込むものが全くない状態で試験を受けてもらうのが、本来のあり方だと考えています。
- 4) 定期試験では、毎年同じ問題や類似の問題を出すわけではありません。

## 5. 担当者

担当者の連絡先などは、以下の通りです。質問、演習問題の提出などは、下記の担当者まで。

准教授・辻原 万規彦

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南西角

電話：096-321-6706, もしくは 383-2929（内線 492）

e-mail：m-tsuji@pu-kumamoto.ac.jp

助手・安浪 夕佳

部屋：環境共生学部西棟（旧棟）4階南側中央付近／3階南西角 細井研究室

電話：096-383-2929（内線 482）

e-mail：yasunami@pu-kumamoto.ac.jp

## 6. その他の注意

- ・担当教員（辻原）に対して生理的嫌悪感などを覚える場合には、その時点でその旨を申し出てください。担当教員（辻原）自身の努力で改善されるような内容であれば、極力改善するよう努めます。しかし、担当教員（辻原）自身による改善が難しくなかつ正当だと考えられる理由を書面で提出した場合には、成績評価の際に、出席点に関する考慮を行います。ただし、その場合でも、定期試験は必ず受験して下さい。
- ・講義時間以外で、担当者に質問をする際には、メールや電話で事前に連絡した方が確実に時間を確保できます。担当教員（辻原）の今年度のオフィスアワーは水曜日 5 時限（16:10～17:40）ですが、この時間帯といえども緊急の会議などの用事が入る可能性もあります。事前に連絡がない場合は、やむを得ず対応できない可能性もあります。なお、特に携帯からメールを送る際には、送り主の氏名を明記することを忘れないでください。送り主が明記されていないメールには返答しないこともあります。
- ・担当教員（辻原）はできるかぎり標準語で話すように努めていますが、これまでの習慣上どうしても関西弁で話してしまうこともあります。しかし、漫才師などではありませんので、面白い話はできません。
- ・その日の進み具合によっては、講義の時間を延長することがあります。11:50 のチャイムが鳴った後、やむを得ない事情がある場合は、退室することを認めますが、講義時間の延長がある点に充分注意し、その後の予定を組んでください。
- ・講義などの説明の際には、できるかぎり具体的な事例を交えて説明するように心がけていますが、これが雑談に聞こえる場合、もしくは本当に単なる雑談の場合で、それ以上聞きたくない

と思われる場合は遠慮なく指摘してください。速やかに次の説明に移るように努力します。

- ・担当教員（辻原）に対して、これまでに、「皮肉的な言い回しが良くない。」「人としてひねくれている。」「主観的すぎる意見があった。」「話し方にとっても不快感を覚えた。言い方（が）嫌味すぎる。」などの意見がありました。担当教員（辻原）としては、できるだけ中立の立場から素直に皆さんに話をするように心がけていますが、上記の様に感じた際には、遠慮なく指摘してください。直接指摘しにくい場合は、演習問題を提出する際に空欄に書くなどして指摘して下さい。性格については、一朝一夕ではなかなか直らないかもしれませんが、できるかぎり、改善するよう努力します。